

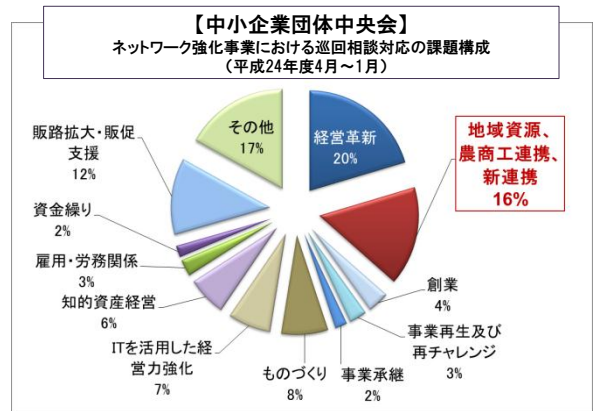
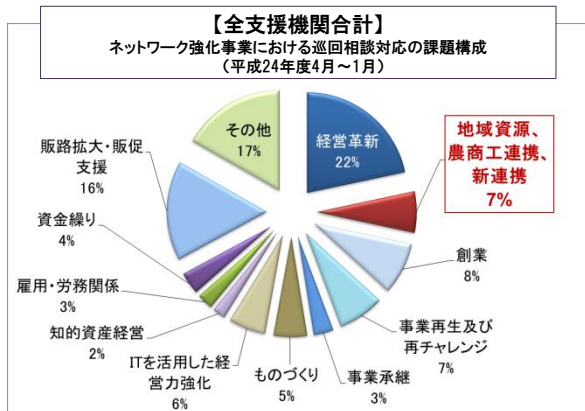
中央会の企業支援モデル

中小企業団体中央会（中央会）による企業支援（個社支援）に関する取材を行い、その特徴を抽出するとともに、中央会の個社支援に関する類型化・モデル化を試みました。本資料では、その一部を紹介します。

1. 中央会による企業支援の特徴

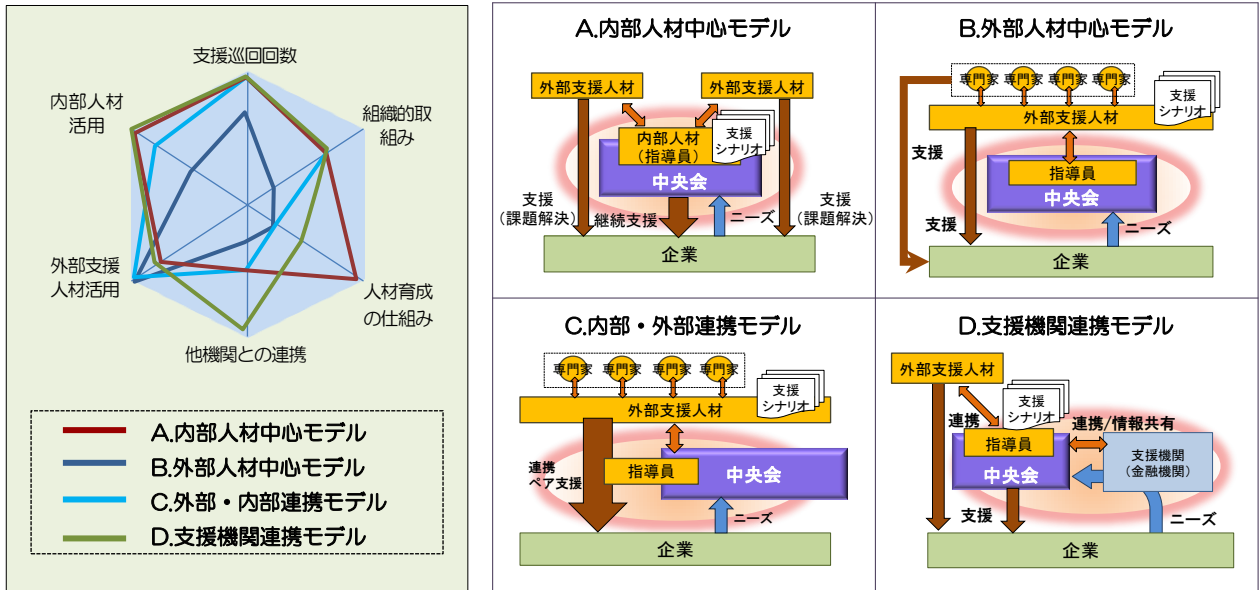
中央会は、中小企業組合等の組織化や連携促進を目的とした機関であり、企業連携、または組合等の連携組織を通じた中小企業支援をミッションとしています。この点が、他の公的支援機関との大きな相違点です。中央会にとっては、組合設立や監査指導、課題別セミナーなど組合に対する支援が最優先となり、その上で個社支援をどう展開していくかは、個々の中央会に委ねられています。

中央会による個社支援の特徴として、＜組織の特性を活かした業種横断的な支援＞が挙げられます。支援企業と他業種組合の企業とのマッチングを行い連携や商品化を進めたり、提携先や仕入れ先を紹介するなど、中央会の持つ地域組織のネットワーク力を活用した支援案件が多く見られます。これらの特徴を活かせるのは、「地域資源活用」や「農商工連携」などの課題であり、地域力連携拠点事業の時から一貫して、両課題に関する巡回割合が高い傾向が見られます。また、組合内のリーダー企業の取り組みを支援し、他の組合員企業への波及により組織全体の底上げを図る手法を採用できることが、他の支援機関には見られない特徴です。



2. 中央会の企業支援モデル

中央会の個社支援への取り組みに関して、ネットワーク強化事業における活動を参照してモデル化を図りました。「支援巡回回数」「内部人材活用度」「外部支援人材活用度」「組織的取り組み体制」「人材育成の仕組み」「他機関との連携」の6要素によりリーダーチャート化し、チャートの形から「A.内部人材中心モデル」「B.外部人材中心モデル」「C.外部・内部連携モデル」「D.支援機関連携モデル」の4つの類型を抽出しました。



モデル	概要
A.内部人材中心モデル	内部人材（指導員）が全体の支援シナリオを策定した上で、個別課題の解決を外部支援人材に依頼するモデル。中央会内部に人材育成の仕組みを併せ持つ場合が多く、担当する指導員は、PM型の支援能力の高い人材が多い。
B.外部人材中心モデル	外部人材が中心となって個社支援を行うモデル。中央会担当者がネットワーク強化事業など国や県の支援策の活用目的を「専門家派遣の活用」と認識している場合も多く、その場合は、外部支援人材は専門家派遣のコーディネーター的役割を担う。
C.外部・内部連携モデル	外部支援人材がメインで支援を行うものの、中央会指導員も支援チームの一員となり、ペアで支援を行うモデル。指導員は中央会の機能を活かして他企業とのマッチングや広報活動支援を行うなど、外部支援人材と役割分担して支援を進める。
D.支援機関連携モデル	他の支援機関と連携して支援を行うモデルで、地域力連携拠点事業や心援センター事業の時に構築した支援機関連携スキームが継続されている場合が多い。組合員企業への支援と同等に、非組合員企業への支援も分け隔てなく行うことが最大の特徴。

3. 中央会の企業支援モデルに関する課題

今後、中央会が積極的な個社支援により組合や地域の活性化を目指すためには、下記4つの課題が考えられます。最重要と思われるのは、①のコンサルティング能力の高い人材の育成ですが、他の3点も、支援機関としての機能を強化するためには必要なポイントと考えられます。

①内部人材の育成と多層化による「A.内部人材中心モデル」への移行

②他の支援機関との連携

③支援分野の絞込みや、中央会の支援スタイルの確立による「他の支援機関との差別化」

④「組合等連携組織への波及効果」を目標とした個社支援への取り組み

制作著作 独立行政法人中小企業基盤整備機構 経営支援部 支援機関サポート課

作成担当 松嵐 葉子（平成23～27年度 全国支援ネットマネージャー）
地域支援機関等サポート事業 ホームページ

<http://www.smrj.go.jp/keiei/chiiikiryouku/index.html>